

対馬産ミンミンゼミの色彩変異について

境 良朗

ミンミンゼミ *Hyalessa maculaticollis* (Motschulsky, 1866) にはミカド型 (var. *mikado*) をはじめ多くの色彩変異が見られる。対馬において通常の緑色を帯びたミカド型は北部及び南部を中心に見ることができるが、極めて稀な赤色タイプのミカド型を採集・撮影しているので報告する。

1) 1♂, 対馬市厳原町豆酩崎, 4-VIII-2010. (写真1・2)

背面は前胸背内片の一部及び腹部に暗褐色部を残すが、中胸背及び背弁は全面明るい赤褐色を呈している。腹面は腹部両側を除き、地色及び腹弁、脚は更に明るい赤褐色である。翅脈も同様である。



写真1: 赤色タイプのミカド型（背面）



写真2: 赤色タイプのミカド型（腹面）

2) 1♀, 対馬市厳原町豆酩崎, 28-VIII-2010. (写真3・4)

1) の個体より更に赤色化が進んだ個体。前胸背内片にわずかに暗褐色部を残すのみで、前胸背、中胸背ともに明るい赤褐色である。腹部背面には暗褐色部が認められる。腹面は全面ほぼ一様に明るい赤褐色を呈している。今まで見てきた中で一番赤味を帯びた個体である。

林 (2016) は、ここにあげた個体のようにミカド型でありながら、色彩では赤色型に相当するような両型の特徴を兼ね備えた個体のことを「赤色型ミカドミンミン」(reddish-mikado) と名付けて報告している。

また、このような変異型の出現について児島孝宣氏より、「ミンミンゼミのコンコロール型（一色型）のようなもので、セミにおけるアルビノの表現型と考えられることから、遺伝的なものといってよいのではないか」との見解を頂いた（私信）。

3) 1♀, 対馬市厳原町神崎, 25-VIII-2016. 撮影 (写真5・6)

前2個体より赤色化は弱く、前胸背、中胸背ともにうっすらと緑色を残している。1) 2) のような赤色タイプのミカド型と通常のミカド型の中間に位置する個体である。

なお、通常型の淡緑色部が赤褐色に置き換わる赤色型が報告されているが（林・堀田, 2019）、対馬では未見である。



写真3: 背面



写真4: 腹面



写真5



写真6

ミンミンゼミは島内に広く分布しているが産地はやや局地的である。斑紋や鳴き声が朝鮮半島のものに似ているといわれており、本土産に比べて明らかに背面の黒化傾向が強い。ミカド型が北部と南部の両端に多く見られるのも不思議である。

最後になるが、ミンミンゼミの変異について文献を恵与されるとともに助言を頂いた児島孝宣氏にお礼申し上げる。

引用文献

林 正美, 2016. ミンミンゼミの色彩変異型. *Cicada*, 23(1) : 7

林 正美・堀田佳之助, 2019. 神奈川県湘南地域におけるミンミンゼミ赤色型の再確認. *Cicada*, 26(1) : 1-3